

厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
診療ガイドラインの今後の整備の方向性についての研究

平成30年度 分担研究報告

臨床医学系学会における診療ガイドライン作成の課題と可能性
- 診療ガイドライン作成現場における課題：各領域の作成委員会参加を通して
(第2報)

分担研究者 吉田雅博 国際医療福祉大学医学部消化器外科学教室 教授
日本医療機能評価機構 EBM 医療情報部 客員研究主幹

【研究要旨】

【背景】日本医療機能評価機構 EBM 医療情報部 Minds (Medical information network distribution service)ガイドラインセンターは、2011年から網羅的検索、系統的評価による選定に基づいた診療ガイドラインデータベースの構築を開始し、一般国民に診療ガイドラインを普及し、活用を促進するための活動を行っている。Minds では、「ガイドライン作成マニュアル」や「ガイドライン作成の手引き」を出版し、作成のための資料を提供しているが、具体的な作成は専門系学会に委ねられており、作成方法論の普及と具体的な作成支援は、十分とは言えない。

【目的】Minds では、2011年から、診療ガイドラインの普及にあわせて、診療ガイドラインの作成支援を拡充させてきた。本報告は、ガイドライン作成委員会の現場のニーズや課題についての実態に関して、2018年4月～2019年3月に、直接ガイドライン作成委員会に参加し、ガイドライン作成委員会の作成現場における傾向と課題を抽出することを目的としている。

【方法】

- (1) 診療ガイドライン作成委員会に直接参加する（現在の所、依頼ベース）
- (2) ガイドライン作成支援の内容を集計、解析する

【結果】

- (1) 作成支援 32 ガイドライン委員会に延べ 82 回参加
統括委員会関係 6 学会等に延べ 6 回参加
- (2) ガイドライン作成支援の内容
 - スコープ（重要臨床課題、CQ） 10（12.2%）
 - システマティックレビュー 27（32.9%）
 - 推奨作成 23（28.1%）
 - 普及のための工夫 12（14.6%）
 - 総論（全体の説明） 10（12.2%）

【考察】

(1) 作成支援依頼として、システマティックレビュー、推奨作成の順に多く、61%を占めた。
(2) 一方、普及のための工夫に関する支援依頼は、14.6%にとどまったが、昨年度の 7.3%に比し増加傾向であった。

現時点でも、ガイドライン作成・普及・活用・評価というガイドライン作成改訂の流れの中で、実務作業の支援依頼が多いが、普及活用のための依頼も増加傾向にある。

【結論】

質の高い診療ガイドライン作成に向けた支援は言うまでもないが、普及に向けた取り組みを行なう必要が再認識された。

背景

日本医療機能評価機構 EBM 医療情報部 Minds (Medical information network distribution service)ガイドラインセンターは、2011 年から網羅的検索、系統的評価による選定に基づいた診療ガイドラインデータベースの構築を開始し、一般国民に診療ガイドラインを普及し、活用を促進するための活動を行っている。Minds では、「ガイドライン作成マニュアル」や「ガイドライン作成の手引き」を出版し、作成のための資料を提供しているが、作成は専門系学会に委ねられており、作成方法論の普及と具体的な作成支援は、十分とは言えない。

A. 研究目的

Minds では、2011 年から、診療ガイドラインの普及にあわせて、診療ガイドラインの作成支援を拡充させてきた。本報告は、ガイドライン作成委員会の現場のニーズや課題についての実態に関して、2018 年 4 月～2019 年 3 月に、直接ガイドライン作成委員会に参加し、ガイドライン作成委員会の作成現場における傾向と課題を抽出することを目的としている。

B. 方法

(1) 診療ガイドライン作成委員会に直接参加する(現在の所、依頼ベース)

(2) ガイドライン作成支援の内容を集計、解析する

C. 結果(表1)

(1) 作成支援として 32 ガイドライン委員会に延べ 82 回参加、統括委員会関係に対し 8 学会等に延べ 11 回参加した。

(2) ガイドライン作成支援の内容

スコープ(重要臨床課題、CQ)	10 (12.2%)
システマティックレビュー	27 (32.9%)
推奨作成	23 (28.1%)
普及のための工夫	12 (14.6%)
総論(全体の説明)	10 (12.2%)

D. 考察

作成支援依頼として、システマティックレビュー、推奨作成の順に多く、61%を占めた。

一方、普及のための工夫に関する支援依頼は、14.6%にとどまったが、昨年度の 7.3%に比し増加傾向であった。

現時点でも、ガイドライン作成・普及・活

用・評価というガイドライン作成改訂の流れの中で、実務作業の支援依頼が多いが、普及活用のための依頼も増加傾向にある。

より臨床で役に立つガイドライン作成のためには、ガイドライン出版とそれに引き続く、普及・活用・評価についても、十分な情報提供と支援が必要である。

E. 結論

質の高い診療ガイドライン作成に向けた支援を行う事は言うまでもないが、普及に向けた取り組みも同時に啓発する必要が再認識された。

F. 参考文献

1. 福井次矢, 山口直人編. 診療ガイドライン作成の手引き 2014. 医学書院、東京

G. 健康危険情報

該当なし

H. 研究発表

1. 論文発表

1) Go Wakabayashi, Yukio Iwashita, Hibi T, Takada T, Strasberg SM., Asbun HJ., Endou I, Umezawa A, Asai K, Suzuki K, Mori Y, Okamoto K, Pitt HA., Han H-S, Hwang T-L, Yoon Y-S, Yoon D-S, Choi I-S, Huang WS-W, Gimenez ME, Garden O.J, Gouma DJ., Belli G, Dervenis C, Jagannath P, Chan A C.W., Lau WY, Liu K-H, Su C-H, Misawa T, Nakamura M, Horiguchi A, Tagaya N, Fujioka S, Higuchi R, Shikata S, Noguchi Y, Ukai T, Yokoe M, Cherqui D, Honda G, Sugioka A, Santibanes E d, Supe AN, Tokumura Hiromi, Kimura T, Yoshida M, et al. Tokyo Guidelines 2018: surgical management of acute cholecystitis: safe steps in laparoscopic cholecystectomy for acute cholecystitis (with videos). Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Science. 2018; 25: 73-86

2) Seiki Kiriyama, Kazuto Kozaka, Takada T, Strasberg SM., Pitt HA, Gabata T, Hata J, Liou KH, Miura F, Horiguchi A, Liu KH, Su CH, Wada K, Jagannath P, Itoi T, Gouma DJ, Mori Y, Mukai S, Gimenez ME, Huang WSW, Kim MH, Okamoto K, Belli G, Dervenis C, Chan AC.W, Lau WY, Endo

Itaru, Gomi H, Yoshida M, et al. Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Science. 2018; 25: 17-30

I . 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

- 1 . 特許取得 該当なし
- 2 . 実用新案登録 該当なし
- 3 . その他 該当なし

表 1-1 . 診療ガイドライン作成参加年間テーブル (作成支援)

	2018年3月	2018年4月	2018年5月	2018年6月	2018年7月	2018年8月	2018年9月	2018年10月	2018年11月	2018年12月	2019年1月	2019年2月
1 後縦帯骨化症 (OPLL) ガイドライン	総論											
2 食道癌診療ガイドライン		食道癌診療ガイドライン改訂に向けた検討委員会						検討委員会				ガイドライン検討委員会
3 食道ESD/EMRガイドライン					総論							ガイドライン作成工程の説明・COO決定・その他
4 IgG4ガイドライン	総論											
5 大腸癌治療ガイドライン			推奨作成					評価委員会			活用方法の検討	
6 早期胃癌診断のための内視鏡ガイドライン		ガイドライン報告・公聴会・本ガイドライン作成の経緯・講演										打ち合わせ
7 外反母趾診療ガイドライン			ガイドライン改訂に向けた基本事項や留意すべき点の確認と今後の手順について・講演									
8 間接性骨髄質症診療ガイドライン			SR			SR			審定委員会	SR		
9 転移性肝癌国際診療ガイドライン			CO作成		CO作成				ガイドラインとは、アメリカや日本、英国の専らエビデンスとは何か? エビデンスレベル、えびだんごエビデンスの評価、真のエビデンス・ポイント、バイアスとは何か? 4. systematic review, evidenceとは何か、5. meta analysisについて、論文から、どのようなものがmetaの対象になるかを見つめるコツ (終章には追加?) 7. 構造化抄録作成と手順			
10 在宅ケアガイドライン				ガイドラインの必要性と作成方法・講演		COの妥当性の検討と今後の作業の進め方(批判的検討、メタ分析等)・他						
11 下肢静脈瘤の血管内治療ガイドライン			委員会					改訂小委員会推奨				臨時小委員会
12 消化器外科SSI予防のための周術期管理ガイドライン	出版後の活用に関する検討			ガイドラインWG会議 推奨作成		活用促進会議						
13 骨柱帯骨化症ガイドライン						SR						SR
14 腰部骨柱帯骨化症診療ガイドライン							ガイドライン作成に向けたセミナー開催					
15 COPD/OAS								ガイドライン作成におけるシステムチェックシートについて・講演				
16 癌治療学会ガイドライン委員会								ガイドライン作成におけるシステムチェックシートについて・講演				
17 推奨版ヘルニアガイドライン							総論					
18 医療情報学連合大会									診療ガイドラインと医療の質・QI			
19 G-CSF適正使用ガイドライン									総論			
20 睡眠時無呼吸症候群の診療ガイドライン												最終内容の確認・CO投票に向けた準備
21 日本産科婦人科内視鏡外科ガイドライン				ドラフトの推奨コメント、推奨度、エビデンスレベルの記載に向けて最終確認、各COの内容をチェック、推奨コメントの掲載、ガイドライン全体構成の検討、今後の予定確認								
22 膀胱癌診療ガイドライン	SR			改訂成案定委員会会議 推奨	推奨							
23 内視鏡外科ガイドライン委員会		各領域の進捗状況報告、SR		各ガイドラインの進捗状況について今後のガイドライン作成予定についてSR								
24 消化器病学会ガイドライン (SR委員会)	SR				SR	ガイドライン作成のクォーター・SR 2回						
25 乳癌診療ガイドライン	公聴会			高療者版出版後の患者版の作成方法、再改訂版に向けたキックオフミーティング								OAS基礎コース
26 胃癌診療ガイドライン	改訂委員会			推奨作成 2回			ワーキング 推奨	改訂委員会 推奨	改訂委員会 推奨			
27 食道ESD/EMRガイドライン				第2版 委員会 推奨作成		修正Delphi法によるステートメントの発信						
28 遠隔診療ガイドライン (班会議)								SR				
29 転移性肝癌診療ガイドライン	CO作成	ガイドライン作成会議	背景情報とCOIについて調査結果報告		SR	SR		SR	ガイドラインとは、アメリカや日本、英国の専らエビデンスとは何か? エビデンスレベル、えびだんごエビデンスの評価、真のエビデンス・ポイント、バイアスとは何か? 4. systematic review, evidenceとは何か、5. meta analysisについて、論文から、どのようなものがmetaの対象になるかを見つめるコツ (終章には追加?) 7. 構造化抄録作成と手順		SR	委員長、副委員長会議 SR
30 上肢骨外側上顆炎診療ガイドライン				COOの決定について、会議でアドバイスを	SR	SR		SR 2回	推奨作成	推奨作成		審定委員会 推奨作成
31 前十字靭帯 (ACL) 損傷診療ガイドライン										CO 2回		
32 軟部腫瘍診療ガイドライン										推奨	推奨	各COの推奨事項の検討と推奨の強さの決定・今後の作業予定

表 1-2 . 診療ガイドライン作成参加年間テーブル (学会統括委員会等)

表 1-2 . 診療ガイドライン作成参加年間テーブル (学会統括委員会等)												
	2018年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2019年1月	2月
1	消化器内視鏡学会ガイドライン統括委員会		SR									
2	癌治療ガイドライン統括委員会							1. 第3回委員会の議事録の確認について 2. 2017年度活動報告及び2018年度・2019年度活動計画について 3. 診療ガイドライン作成・改訂への本学会の関与について (1) 高齢がん患者を対象とした診療ガイドラインについて (2) 希少がんに関するガイドラインについて (3) その他 4. ガイドラインの全面改訂・一部改訂の定義について				
3	歯科診療ガイドライン	作成講習会										
4	臨床腫瘍学会 ガイドライン				ガイドライン・ガイドライン作成状況報告							
5	日本呼吸器感染症学会				ガイドライン・ガイドライン作成状況報告							
6	日本泌尿器科学会岡山地方会								作成WG委員会			診療ガイドラインの作成方法と活用のポイント: 講演
		1	1				1		1	1		1